

日本共産党

磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
 川西町結崎 862-7 0745-43-2415
 吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
 田原本町大木 113-5 090-5257-4446
 森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
 田原本町鍵 281-1 0744-33-8570
 (事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
 三宅町屏風 440-5 0745-43-2661

TPP交渉参加表明

首相「合意ずみルール変更できぬ」

環太平洋連携協定（TPP）について、安倍晋三首相は15日、首相官邸で記者会見し、日本が交渉に参加することを正式表明しました。これに対し日本共産党の志位和夫委員長は記者会見し、「強く抗議し、撤回を求める」談話を発表しました（全文）。全国農業協同組合中央会の萬歳章会長は「強い憤りをもって抗議する」との声明を出し、市民団体や労組は国会前で終日、「国を売り渡すな」と怒りの声をあげました。

安倍晋三首相は会見で、「TPPが目指すものは太平洋を自由にモノやサービス、投資などが行き交う海とすることだ。世界経済の3分の1を占める大きな経済圏が生まれる」と強調。中国、韓国、インドネシアなどアジアの主要国がTPPに参加していないことには触れず、「日本だけが内向きになったら成長の可能性もない、優秀な人材も集まらない」とし、「アジア太平洋の未来の繁栄を約束する枠組み」とTPPを絶賛しました。

からこそ衆院選挙で聖域なき関税撤廃を前提とする限りTPP交渉参加に反対すると明確にし、国民皆保険制度を守るなど、五つの判断基準を掲げた」と強弁。交渉参加表明によって公約を踏み破っているという批判には耳を貸さず、「交渉力を駆使し、守るべきものは守り、国益にかなう最善の道を追求する」とのべるだけで、何の担保も示しませんでした。しかも、「すでに合意されたルールがあれば遅れて参加した日本がそれをひっくり返すことが難しいのは厳然たる事実」と述べ、不利益な条件を受け入れざるを得ないことを認めました。

また記者団から、「国益に反する場合、交渉から撤退するのか」との問いに明言を避けました。

安倍首相は、TPPの意義は経済効果だけにとどまらないとし、「同盟国である米国と共に、新しい経済圏をつくる。そして自由、民主主義、法の支配といった普遍的価値を共有する国々が加わり、アジア太平洋地域における新たなルールを作り上げていく」と述べました。

マツダの違法派遣13人を正社員と認定 山口地裁判決

大手自動車メーカー、マツダの防府工場（山口県防府市）を「派遣切り」されたユニオン山口の15人が正社員としての地位確認などを求めたマツダ訴訟の判決が13日、山口地裁（山本善彦裁判長）でありました。労組側の主張をほぼ全面的に認め、13人について正社員として認めました。

マツダは最大3年とされている派遣制限期間を逃れるために、派遣社員を「サポート社員」（クレーン期間）としていったん直接雇用したのち再び派遣社員に戻していました。

判決では、マツダが常用雇用の代替としてならぬという労働者派遣法の根幹に反して、派遣社員を使って労働需要の変動に対応していたと認定。「サポート社員」について「方便として導入したものであり、労働者派遣法の違反が組織的かつ大々的に」マツダと派遣会社の協同で

東日本地震・12号台風への
 救援募金にご協力を
 【郵便振替口座】
 00170017198422
 名義は、日本共産党中央委員会です。
 送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、「地震救援募金」である事の明記を。
 磯城郡日本共産党議員団

行われていたとのべ、両社の派遣契約は無効だと断罪。労働者派遣法違反に罰則規定はないが、マツダの責任を不問にすることはできないとして、マツダと原告の間に黙示の労働契約の成立が認められるとしています。なお「サポート社員」を経験していない原告2人は正社員と認められませんでした。

勝利判決に原告らは目に涙を浮かべ喜びました。判決後の報告集会で弁護団長の内山新吾弁護士は「全体として原告側の主張を全面的に認める画期的な判決だ」と評価しました。

この問題で日本共産党の志位和夫委員長は、2009年2月の衆院予算委員会で、マツダが派遣可能期間3年を超えて派遣労働者を働かせるため、3カ月と1日だけ「サポート社員」という期間社員に切り替えるという「クレーン期間」の偽装を告発し、「派遣切り」を追及しました。

仁比聡平参院議員（当時）も08年12月、マツダによる違法な雇用実態を国会で告発しています。

「画期的な判決」
 原告団・弁護団など

原告団と弁護団、共闘会議は同日、声明を発表して、判決の意義を次のように指摘しました。

「（2009年12月の）松下PDP（プラズマディスプレイ）事件最高裁判決以降、おそらく全国で初めて派遣労働者と派遣先との間の黙示の労働契約を正面から認めた画期的な判決である。非正規労働者の置かれた不安定な地位の抜本的な改善へ向けて山口地裁は大きな一歩を踏み出し、その職責をまっとうした。判決は他の同種裁判や労働者派遣法の抜本的な解決に向けた大きな力となる」

2013年3月14日（木）

除染

東日本震災から2年が経過しました。

福島第1原発の水爆事故の被害で除染作業が行われています。費用についてもピンハネしている企業があると報道もされています。

山間部の除染について、今問題になっています。先日、昨年東日本の山を登山しようとした友人の話では「福島の山や谷には放射能が蓄積されている。落ち葉にも蓄積されている。雨が降っても地上に蓄積されなくならない。」という話でした。汚染された土壌を完全に除染する方法は現時点ではないのではないのでしょうか。いったん原子力発電所が何らかの原因で事故を起こし爆発事故にな

れば全土が汚染されることになります。

解決の道は、防ぎようもない原発事故に対する備えは、原子力発電所をなくすことであります。現在日本には50数基の原子力発電所があります。この発電所を廃炉にし、除去するのにも数十年、数百年かかります。また原子力発電所から出る核燃料の廃棄物を無くす科学的な処理方法はいまだ発見されていません。一刻も早く廃炉にし、自然エネルギーに転換すべきではないでしょうか。そのことが日本の自然を守り、除染することにもなります。

三宅町
池田年夫



地域交通

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますから、日頃はもう春その物ですね。今年は冬が寒かっただけに、この温かさは何よりですね。正に四季の有る国の楽しみですし、醍醐味ですね。

さて、そうした中、今週火曜日で川西町の三月議会も跳ねるんですが、新年度の取り組みでは、試行中のコミバスの運行を引き続き実施し、利用者の声の捕捉の強化として、特に利用したいが来ずに留まっている皆さんの声の捕捉に努め、運行で欠けている部分を補いながら、中身の充実に努める方向が打ち出されています。

運行方式として、現在のバス方式以外の乗り

合いタクシー方式での試みについては、町長からは具体化の言及は有りませんでした。

議論を通じて感じる事は、こじんまりとした町域では有りますが、それでもそこを行き来するための移動手段を欠いた皆さんの便をどう確保するのか、地域交通の目的で有りながら、この踏まえ方が不足している事と、その為には、多角的にいろんな方法を検討し試みながら実情に沿う一番役立つ方法を見定め実施する事を基本に踏まえ、干掛け違えているように感じています。

引き続き深めるべく頑張ります。
川西町議会議員
芝 和也



「中学校給食」を一般質問

この三月議会で私は「中学校給食」について三点質問しました。

全県的に中学校給食の取り組みが進んでいる中、また実施していない五市町村の内、とうとう本町だけが「考えておりません」という答弁です。

そこで二校の弁当を持参してない子の実状を質問したところ、昨年九月より一月までの期間で、田原本中学校では月平均延べ295人、一日平均14・7人で全体の2・7%、北中学校では月平均延べ95人、一日平均4・7人で全体の1・8%ということでした。弁当を持参してない子は学校に来るパン屋(田

中のみ)からパンを買ったり、事前に注文していた民間業者の弁当を食べたりしています。こんな状況では大切な「食育」を受けているとは言えるでしょうか。相変わらず「愛情弁当論」が根底にあるようです。

親としては暑い時期には「弁当が腐りはしないだろうか?」寒い時期には「温かい物を飲ませてやりたい」「育ち盛りの子にこの栄養バランスでいいのか?」こんな親の声が本当の愛情ではないのでしょうか。行政の重い腰を上げさせるには親御さんの行動力しかないのか、と痛感しました。



中学校卒業式

先日、田原本中学校の卒業式に出席しました。いつもどおりの式かな? と思って座っていましたら、色々な発見がありました。まず、

卒業証書の授与では、大きな声で「はい!」と返事をする卒業者が何人か居て、会場で受けていました。退場の際、「ありがとうございました」とクラス全員で一声をかけていたことは、中学校生活が充実していたことを思わせました。

中でも、答辞が圧巻でした。「この場を借りて、お父さんお母さん、迷惑をかけてごめんなさい」「沖縄への修学旅行で平和の大切さを痛感しました」「中村先生が亡くなられて、命のけなさを

知らされました」中学校の3年間で人として大きく成長した様子がうかがえました。

これまでの、答辞の中で、全員がステージのひな壇に立って歌を歌うパフォーマンスが無くなり、スライドで一年生のときの幼い顔、2年生、3年生の写真が次々と映し出され、3年間の様子がよくわかりました。町長の「自民党と公明党が政権をとった」という浮いた発言をのぞいて、大変良い卒業式でした。

平和のついでにお世話になった中村先生が亡くなられていたことには驚きました。ご冥福をお祈りします。
田原本議会議員
吉田容工

